

## 高知市における救急搬送活動記録を用いた転倒・転落の実態調査

ヨシモト ヨシノブ サノ ナオミ ミキ フミエ  
 吉本 好延<sup>\*,2\*</sup> 佐野 尚美<sup>3\*</sup> 三木 章江<sup>3\*</sup>  
 ハマオカ カツミ サトウ アツシ  
 浜岡 克伺<sup>\*,4\*</sup> 佐藤 厚<sup>3\*</sup>

**目的** 本研究では、高知市の救急搬送活動記録を用いて、成人と高齢者における転倒・転落の実態調査を行い、性別・年代別に転倒・転落の発生時期および発生場所の検討を行うことを目的とした。

**方法** 対象は、平成17年1月から平成17年12月までに、高知市消防局の救急隊により搬送が行われた転倒・転落延べ967件とした。調査項目は、受傷者の性別、年代、転倒・転落の発生時期、発生場所の計4項目とした。年代は、成人（満18歳から満65歳未満）と、高齢者（満65歳以上）に分類された項目を抽出した。

**結果** 性別・年代別の人口1,000人当たりの転倒・転落搬送件数は、成人において1.32件（男性1.55件、女性1.11件）、高齢者において10.48件（男性9.14件、女性11.32件）であった。性別・年代別にみた屋外での転倒・転落搬送の割合は、高い順に女性成人（60.8%）、男性成人（56.8%）、男性高齢者（54.9%）、女性高齢者（36.6%）であり、女性高齢者を除いた全ての年代で、屋外での転倒・転落搬送の割合が屋内での転倒・転落の割合を上回っていた。性別・年代別・季節別の転倒・転落搬送の割合は、いずれの性別・年代においても、冬季（12-2月）の転倒・転落搬送の割合が最も高率であり、月別では、12月の転倒・転落搬送の割合が最も高率を認めた。

**結論** 転倒・転落状況は、対象者の性別や年代、季節によって大きく異なっており、受傷者の身体活動量や気候および季節行事の違いによって、転倒・転落の原因や発生場所に相違を認めると考えられた。消防局の救急搬送活動記録を活用することで、地域間での転倒・転落状況の比較が可能となり、季節や地域性を考慮した転倒・転落予防対策の提案に向けた新しいアプローチになることが期待される。

**Key words** : 救急搬送活動記録, 転倒・転落, 実態調査

\* 厚生年金高知リハビリテーション病院

<sup>2\*</sup> 高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程

<sup>3\*</sup> 高知女子大学生生活科学部健康栄養学科

<sup>4\*</sup> 高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程

連絡先：〒780-8515 高知市永国寺町 5-15

高知女子大学生生活科学部健康栄養学科生化学研究室

佐藤 厚